

市民公開シンポジウム

「医療被ばくを考える」

—エックス線 CT による被ばくの現状と
その軽減のために—

日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）午後 2 時から午後 4 時半まで
場所：東京大学山上会館（東京都内）

座長 石口 恒男（愛知医大 日本医学放射線学会放射線防護委員会委員長）
遠藤 啓吾（京都医療科学大 日本学術会議放射線・臨床検査分科会委員長）

- 1) 冒頭の挨拶 栗林 幸夫（慶応大・日本医学放射線学会理事長）
- 2) 基調講演「医療被ばくの健康リスク」
甲斐 倫明（大分県立看護科学大）
- 3) 講演
 1. 日本における CT 被ばくの現状
対馬 義人（群馬大）・遠藤 啓吾（京都医療科学大）
 2. 米国における CT 線量管理の現状
伊藤 友洋（GE ヘルスケア・ジャパン）
 3. 日本における CT 線量管理技術の開発
 - 放医研における取り組み
赤羽 恵一（放医研医療被ばく研究推進室）
 - 肺がん CT 検診における取り組み
村松 禎久（国立がんセンター東病院放射線部）
 4. 低線量高画質 CT 装置の開発
柳田 祐司（東芝メディカルシステムズ）
 5. マスコミから
大岩 ゆり（朝日新聞科学医療部）
- 4) パネルディスカッション：医療被ばくを考える
- 5) おわりに（総括）
米倉 義晴（放射線医学総合研究所・日本学術会議会員）

【対象】

一般市民
放射線科医
診療放射線技師
放射線管理担当者
医療機器関係者

【入場料：無料】